

礼拝黙想 Meditating on Worship

A イエス・キリストの受難

最後の晩餐の席における弟子のユダの裏切り(マタイ26:17~29; 1コリント11:23=「主イエスは渡される夜、パンを取り…」)。

ゲツセマネの園における祈りの格闘(ルカ22:44)。「ゲツセマネ」は“油搾り”の意。オリーブの実を砕いて、磨り潰して油を搾り取る。イエスはここで油を搾られるような祈りの時を過ごされた。「悲しみもだえ」の原意は“格闘する”。イエスは文字通り悲しみの余り死ぬほどの経験をされた。医者ルカによれば「汗が血のしずくのように地に落ちた」という。これは極度のストレス、ショック、恐怖によって毛細血管が破れ、汗腺から汗と混じって出血する“血汗症”という症状。これで死亡するケースもある。

「わが父よ。できますならばこの杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのようになさってください。」やはりイエスも所詮は人間。死が怖かったのか? いいえ。罪のないイエスが人類の罪を背負い、十字架にかかって死ぬことで、父なる神と引き離され、永遠に保ってきた愛の関係が初めて断たれ、神に見捨てられる最も孤独な瞬間を迎える。それは耐え難い恐怖。光から闇へ突き落とされる思い。聖なる・義なる神の罪に対する怒り・さばきが注がれる。何のいわれも無く、愛する親に突き放される思い。孤独感。

イエスはゲツセマネの園から立ち去ることもできた。しかし、立ち去ってしまえば、私たちは救われることはなかった。聖書

では油は聖霊のシンボル。油を搾取するためには、オリーブの実を砕いて、搾らなくてはならない。私たちがイエスを信じて聖霊を受けるためには、イエスが砕かれ、搾られる必要があった。日本語で「油を搾る」とは過失を厳しく責めること。罪のない方が私たちの身代わりに罪の罰を受けた。

イエスは「友」と呼んだ弟子のユダに口づけ(敬愛表現)をもって裏切られ、逮捕(マタイ26:49, 50)。直後に他の弟子たちにも見捨てられた。親友に裏切られる気持ち。

違法で不当な尋問・裁判を立て続けに6回も受ける(アンナス官邸、カヤパ官邸、サンヘドリン議会、ピラト官邸第1審議、ヘロデ官邸、ピラト官邸最終審)。無実の罪を着せられ、死刑判決を受ける。冤罪の苦しみ。肉体的にも深夜から翌日午前中にかけて、イエスは徹夜。一睡していない。この間4キロの道のりを縛られたまま。

目隠しされ、顔をこぶしや棒で殴打(同67)。無防備の状態で殴られるとひどいダメージを受け顔は腫れ上がる。つばきをかけられ侮辱、嘲笑。ユダヤでは3種類の侮辱に対する罰金が科せられる。「こぶしで殴る」=罰金4デナリ(4日分給料)。「平手で殴る」(こぶしよりも侮辱)=200デナリ。「つばをかける」(平手よりも侮辱)=400デナリ(年収以上)。

きわめつけは、愛する弟子のペテロによって公の場で3回も否定された(同69-74)。自分が窮地に追い込まれた時に愛する者に知らん顔されることほどつらいことはない。

ピラトのもとでは、群集からの罵声を浴び、鞭打ちに。「懲らしめた上で釈放します」(ルカ23:16)。それは死刑の予備段階ではなく、死刑の代案として提案されたもの。ただの鞭打ちとはわけが違う。まず受刑者は、丸太を抱くように両手首を縛られ、地面から30cmほど吊り上げられ、無抵抗、防御不能の状態にされる。鞭は“フラグラム”と呼ばれるもので、先が12~13に分かれて、それぞれの先端には、ガラス、骨、鉛の塊がついている。罪を自白させるための拷問の刑具。みみずばれどころの話ではない。皮膚は引き裂かれ、筋肉は削ぎ落とされ、骨が露出、時に内臓までもえぐりだし、死に至らせる。大抵の囚人は、即刻自白し、回数を減らしてもらう。イエスには告白すべき罪は何一つなかった。最後に紐が解かれ、自らの血溜まりができたコンクリートの地面に落とされる。皮を剥がされた羊を想像してほしい。この時点でイエスは瀕死の重傷を負った。

裁判後、ローマ兵士によって、いばらの冠をかぶらされる。いばらのとげは、5cmもあって、兵士たちは何度もイエスの頭を棒でたたいた(マタイ27:29, 30)。額の回りは一番血管の多い所。とげは頭蓋骨にまで食い込んで出血がひどい。その上で、世界最強のローマ兵士たちはよってたかってイエスをリンチ。

「打つ者に私の背中をまかせ、ひげを抜く者に私の頬をまかせ、侮辱されても、つばきをかけられても、私の顔を隠さなかった」(イザヤ50:6)。ひげも抜かれた。鼻毛や眉毛を抜くのはわけが違う。

「多くの者があなたを見て驚いたように、

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた【MGF】は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

その顔たちは、そこなわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。」(同52:14) 顔が腫れ上がって、血まみれで、イエスだと見分けがつかなかった。むしろ、人間に見えなかった。

ピラトの官邸からゴルゴダの丘まで約600mの道のり。「ヴィア・ドロッサニ悲しみの道」と呼ばれる。イエスは重さ35~50kgもの十字架の横棒を担いで登った。立っただけで不思議なくらい。実際途中で倒れこんだ。

当時十字架刑は奴隷、凶悪犯限定の極刑(ローマの自由人は免除)。それは単なる死刑手段ではない。最大限苦痛を与え、卑しめ、見世物にする。言葉にはできないような様様な苦痛が伴う。長さ25~30cmの巨大な釘を手の平ではなく、手首に打ち込む(体重がかかり、手が引き裂かれてしまうから)。結果、正中神経を貫き、腕の自由が利かなくなる。次に膝を曲げ、左足を右足の上にクロスさせて足の甲に釘を打ち込む。

体重が両腕にかかるため、肩と肘の関節が外れ、脱臼の痛みが襲う。大胸筋が痙攣し、横隔膜、肺が圧迫され、呼吸困難に陥る。普通に呼吸ができないため、釘で打たれた足に体重をかけ、膝を使って上半身を持ち上げて、呼吸せざるを得ない。しかし、今度は足に全体重がのしかかり激痛が走る。次第に、十分な呼吸が確保できないため、低酸素症となり、また出血多量からひどい脱水症状となり、全身に激しい痙攣、発作が襲う。呼吸酸性症(アシドーシス)と大量出血により腎臓が補償作用し、結果心臓を酷使。血液量減少性ショックとなる。心臓に体液が溜まり、血液循環が悪くなり、じわじわと窒息死に追い込まれる。

イエスはこのような激痛との戦いの只中で、7つの言葉を発した。

①「父よ。彼らをお赦ください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」(ルカ23:34)。

②「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」(ルカ23:43)。

③「女の方。そこにあなたの息子がいます」(ヨハネ19:26)。

④「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マタイ27:46)。

⑤「わたしは渇く」(ヨハネ19:28)。

⑥「完了した」(ヨハネ19:30)。

⑦「父よ。わが霊を御手にゆだねます。こう言って息を引き取った」(ルカ23:46)。

イエスはすでに呼吸停止していたので、ローマ兵はわき腹、即ち心臓の右側を槍で刺して死亡を確認。結果血と水が分かれて出てきた(ヨハネ19:34)。すでに血液量減少性ショック状態にあったイエスの心拍数は、死を迎える前にすでに異常に上がっていて心機能不全を起こしていたと思われる。この結果、心臓の周りの細胞膜周辺に心外膜液という液体が、そしてその肺には胸水という液体が集まる。槍は右肺から右心臓に到達する。そして槍を引き抜く時に水のように見える心外膜液と胸水が体外に排出され、その後、大量の血がやはり体外に排出される。こうしてイエスは肉体的には確実に死亡したことが確認された。イエスは、仮死状態から蘇生したのではなく、完全な死からよみがえられたのである。

「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しさばかれる方にお任せになりました。そ

して自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(Ⅰペテロ2:22-24)

「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」(同3:18)

「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」(ローマ4:25)

「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(同5:8)

「そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。」(Ⅰコリント15:17)

「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」(Ⅱコリント5:15)

Ω

<お知らせ Announcement>

◆ 来月午前礼拝 10/30 午前10:30~

◇ 10/28(金)夜BSはキャンセル

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた【MGF】は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。